

【失敗を経験する時】

今日の聖書本文: 士師記13章24節、16章25節-31節/暗唱聖句: 詩篇1篇1節

説教: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主が下さる信仰と平安の中で心も、体も、思いもよく守られましたか。もう明日からは小学校の子供や学生たちの学校が始まりますよね。後期にもみんな守られ、祝福されますように、全知全能の神様が今学期にもみんなの上にさらなる知恵と健康と力と良い出会いの祝福を与えて下さるように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

先週は先々週には神様に断られる祝福について教えられました。私たちがいくら願い、求めても神様はいつもYES!OK!で答えて下さるサポートみたいな方ではないこと！時にはまだだよ！（Wait!）の時もあれば、神様は断って下さる時もあると学ばされました。しかし、断れたことにはかならず神様の目的があり、そこにもかならず我々のための神様の祝福が含まれていることを学ばされました！

そして、今日は人生の中で私たちがよく過ちをしったり、失敗を経験した時どうするべきなのか御ことばを通して共に学んで生きたいと思えます。

「士師記の14人目のさばきつかさであるサムソン(Samson)」

今日の聖書の本文は旧約聖書の7番目に出ている士師記のないようです。士師記にはやく16人の神様に召された士師(さばきつかさ)たちについての御言葉が記されています。約B.C.1390年ごろ、イスラエル民が40年間の荒野での生活を通ってついに約束の地であるカナアンに入られて信仰の指導者であるヨシュアが召されてから(1:1)の政治的にも、霊的にもイスラエル民たちが墮落し、混乱されていた時期が士師記の背景です。

「士師(さばきつかさ)」というのは、当時の神様の預言者であり、軍隊の隊長であり、イスラエルの指導者のことです。

士師記2章16節から23節まで読んで見ると、神様がなぜ士師(さばきつかさ)を召して立てて下さったのか、そして、当時、神様の前で不信仰的なイスラエルの民の状況がよく要約されています。まだイスラエルの王がない時に、苦しんでいたイスラエルの民たちを敵から救うため、そして、神様の御心通りに民を導き、神様の公儀と正義で治めながら、神様はさばきつかさたちを必要な時々を立ててくださいました。

今日はそのさばきつかさ16人の中で14人目に選ばれたのがサムソン(B.C.1100頃、名前の意味: 小さな太陽)っという人に関する内容です。サムソンは、20年間イスラエルの指導者を務めた信仰の人物でした。特に士師記13章から16章にかけて彼の出生からどのような人生だったのかを最後までサムソンの一生涯を詳しく教えて下さっています。

13章24節を読んで見ますと、サムソンは生まれから神様に祝福された者でした。

「その後、この女は男の子を海、その名をサムソンと読んだ。その子は大きくなり、主は彼を祝福された！」

サムソンの話は御使いが彼の両親の元に現れ、預言の言葉をつげる印象的な場面から始まります。彼らには子供がなく、サムソンの母は不妊の女性でしたが神様はそんな二人に、将来イスラエルの士師となるサムソンを奇跡的に区別された者として授けて下さいました。成長したサムソンは、御使いの預言の通りに、イスラエルで20年間士師通して神様と苦しんでいるイスラエル民のために仕え、勤める氏名が与えられました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！サムソンのように私たちにもそれぞれ違った神様からの才能と賜物を頂、それぞれ神様からの生まれた各自の人生の目的と使命が与えられていることを忘れないで下さい。ある人は一タラントのように小さな賜物みたいに、才能みたいにしか見えないかも知れませんが、主の御前で忠実に使い、大いに用いられた人生もあれば、特別な賜物と才能を神様から頂いたのにもかかわらず、そのものがすべて自分のものみたいに勘違いし、高ぶりになってそれを正しく生かせず、却って自分の人生を不幸にさせさ迷った人生もたくさんあるでしょう。実は今日のサムソンが後者のケースでした！

サムソンの場合も特に神様に祝福されさばきつかさという身分を頂、超自然的な力、魅力的な容姿(ようし)、そして神様との親しい関係を特別に与えられていました。このように祝福された指導者として他の人よりもっと有利な条件が備(そな)わっていたにもかかわらず、彼は正しくも、自分の可能性も十分生かせなかった残念な人生でした。ドイツのマーティンタル先生が“人生の中で絶えず戦うべき一番最大の敵は自分の中にある自分だ”とおっしゃったように「自分」という一番の敵に悩まされ負け続けていたのです。そのために、素晴らしい神様の祝福を受けたサムソンでしたが、人生を台無し(だいなし)にしてしまい、あらゆるトラブルをその身に招くことになってしまいました。

残念ながら人間の本性は普遍的でしょう。ですから、サムソンの失敗は今日の私たちにとっても他人事ではありません。サムソンは、取り返しのつかない誤った選択を3度もくり返してしまいました。そして、その過ちから何一つ学ばないうちに、自分の人生を台無し(だいなし)にしてしまったのです。彼の失敗の例から、今日、私たちは人が失敗やトラブルに陥り、さらに招いてしまう典型的なパターンを知ることができます。これらの3ぐらいの罠(わな)を見極めることができるようになれば、現在抱(かか)えている問題によく対処し、同時に将来おこるであろうと新たな問題を乗り切っていくことができると信じております。

<1. サムソンは失敗や自分の過ちから学ぼうとしませんでした！>

サムソンの生涯を通して学ぶことができる一目の原則は、「失敗や過ちから学ぼうとしなければ、自分に大きな苦しみを招くことになる」ということです。

サムソンは2つの大きな弱さを抱えていましたが、そのどちらもサムソンは克服しようとはしませんでした。それらの弱点は、生涯サムソンの悩みの種となって、最終的には彼を破滅に追いやったのです。そのサムソンの一つ目の弱点は、短期でした。サムソンは激しい性格の持ち主で、しばしばその怒りを爆発させてしまうことがありました。それともそんな自分がいつも正しいと思い込んでいました。

士師記14章12-19節を読んでみると、彼の行動の重要な動機を探て見ると、それが怒りと復讐心であったことが分かります。着物を奪い取るために30人を殺した時、彼のうちに燃えていたのは怒りでした。士師記15章(3-5節)に畑に火を放(はな)つたのは、仕返しのためでした。自分の嫌っている男たちに向かって復讐を誓(ちか)い、「あなたがたがこういうことをするなら、私は必ずあなたがたに復讐する。そのあとで私は手を引こう。(15章7節)」と宣言したこともありました。後日(ごじつ)、彼は「彼らが私にしたとおり、私は彼らにしたのだ。(15章11節)」と言って、神様が下さった力をさらに何千人もの人々を殺すのにアンナ無駄に、それとも罪を犯す事に使ってしまったのです。みなさんはいかがですか。我々はいかに感情的になりやすい者たちでしょうか。おれは性格がもともとそうですから！と丹念しないで下さい。神を信じ、聖霊に属されて入る者はすべて御霊の御が結ばれ、徐々に変わってはずです。寛容が、親切が、柔和が、自制の実が結ばれて行きます。自分の感情をうまくコントロールし、正しく治めることができる力が信仰であると私は信じます！

サムソンはきっと神様を信じていて、それともさばきつかさという素晴らしい信仰の指導者の立場に立っていたのにもかかわらず、彼は一生信仰によって自分の感情を治めることもできず、いや自己合理化しながらそうすることすらしませんでした！

二つ目のサムソンの弱点は、彼の心の貪欲(かど)である過剰(かど)な性的欲求にありました。

サムソンは肉体的には強くても、道徳的には弱かったのです。神様の原則を意識的に無視してきた彼の人生は、なさけないほどの失敗の連続でした。サムソンは失敗から決して学ぼうとせず、同じ過ちを何度も繰り返したのです。彼にとってそれは、すべてを見ておられる、心を奥まで知っておられる神様とまるで「火傷(やけど)をしないでどこまで炎(ほのお)に近づけるか。」という神様とゲームのようなもののように見えます。すぐ自分が間違っても、何の問題やトラブルもないし、そういうことが起こっても何とか今の自分の力ですべて解決できる力があるだろうと思い込んでいました。

しかし、愛するみなさん！決して忘れてはいけないことは、罪の恐ろしさは人には目の前がすべてで後の罪の悲惨な結果までは見せないところです。だから多くの人々が罪であることを気づきながらも、もうそんな大したことじゃないといいながら、悲惨な結果にいたるまではやめられないのです。

サムソンがそうでした！ある時、サムソンはペリシテ人の売春婦デリラと知り合いになりました。彼はいつものように、彼女との「火遊び」を楽しみ始めました。しかし、ペリシテ軍隊から辞令(じれい)を受けたデリラはサムソンの性的な弱点をねらい、利用して、強さの秘密を探ろうとして何回も徐々に誘惑している内にサムソンは神様との約束は忘れて、話してしまったのです。

そしてついに、サムソンはペリシテ人たちの手に渡されて恥辱(ちじょく)と侮辱(ぶじょく)を受け、悲惨な奴隷になってしまいました。

サムソンとしては、ただ小さな火遊びのつもりでしたが、その結果は祝福されたサムソンの人生すべてが破滅されてしまったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日私たちにもサムソンと同じような傾向があるのではないのでしょうか。たとえば、「たった一度くらい、こんな小さいことで何も変わらんし！」と言いながら、自分の信仰の良心をごまかしてしまったことはなかったのでしょうか。「一回だけなら傷つけることにはなるまい。一回だけこうしてみようか。そう、一回だけさ」と。

創世記のアダムとエバのように神様がダメだと言われても一度だけ善悪の木の実を味見するだけだからとしたことが人間の墮落になってしまったのではないのでしょうか。罪の誘惑と畏(おそ)ない人につも大きな罪を犯すようにさせません。小さなことから触るようになります。

みなさん！誰も自分が取り返しのつかない失敗をするとは思っていないのです。しかし、失敗はとても自然な形で私たちに忍(しの)び寄って来

まず、徐々に、段階的に、少しずつ、私たちはうしろに後進していくのです。

人生は一日のうちに崩壊してしまふものではありません。私たちが自らの失敗から学ぶことを拒んでいる間に、いつの間に取り返しのつかないことになってしまうことをサムソンの話を通して下さった神様の教訓をきびしく受け止めなければなりません。

<2. どんな友人を選ぶことが大切です！>

サムソンの人生から学ぶことのできる第二の原則は、「友達が悪ければ、自分に大きな苦しみを招くことになる。」ということです。まさに、黒に交われば暗くなるでしょう。

私たちは、最も多くの時間を過ごした相手に似せられていく傾向があります。だからこそ、友人を賢く選ぶことが大切なのです。

今日神様の人だったサムソンを破滅させたのは、彼のまずい交友(こうゆう)関係でした。

神に選ばれ、特別な任務が与えられていたにもかかわらず、サムソンは不健全な人間関係を築き上げ、よくない友人たちの影響で道を歩み外してしまったのです。

今みなさんの友人の中では100パーセント神様のために生きることの妨げになっている友人はいないのでしょうか。本当にそうしたくないのに無理にあわせてはいないのでしょうか。旧約聖書の箴言には、否定的な人間関係につちえ何度も忠告(ちゆうこく)をあたえています。人を建て上げるよりも、つまずかせる方が簡単なのです。

それでは、どんな友人を持てばよいのでしょうか。私たちは、神様の前で私たちの最善を引き出し、私たちを建て上げるため励ましとともにそれだけではなく、心から友のため苦い忠告でもしてくれる信仰の友達ではないでしょうか。

箴言27:17-「鉄は鉄によってとがれ、ひとはその友によってとがれる。」

箴言22:11-「心のきよさを愛し、やさしく話をする者は、王がその友となる。」

特に、驚くべきことは、ヨハネの15章14-15節には、「15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。 15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。」

主の御言葉通り従っている人たちに神様はその人に友となって下さり、我々も主の友としてさせてくださるということです。

人生の一生涯の信仰の友として主とともに同行するこの素晴らしい特権がすでに我々に与えられています。以前サムソンはこの特権さえ、見逃(みのが)してしまって、かえって、淫乱な友、罪と破滅の道においやる人たちを友として作ってしまったのが問題でした。(良い出会いさえも祈れざるを得ません。)

<3. サムソンは霊的に無頓着であることがさらに問題を招いてしまいました！>

もう一つ、サムソンの生涯全般に見られたことから、学べる最も重要な原則は、「神様に対して霊的に無頓着であると、自分に大きな苦しみを招くことになる」ということでした。サムソンは、自分の霊的な生活については無頓着でした。彼は神様に召された者として彼が頂いた表(力、家族、祝福、活躍など)はほめられ、認められましたが、聖書をよく読んで見ると、サムソンは真剣に神様に近づこうとしたことは一度もなく、それはさまざまな場面で問題を引き起こす根本的な原因となりました。サムソンは、いつも自分のためだけに生きていました。

彼の生活スタイルの特徴は自己中心の一言に尽きました。サムソンの左右の銘(さゆうのめい)は、「気が向いたらやる！」みたいでした。神様はサムソンに素晴らしい人生を計画しておられました。それは、私たち一人一人に対する神様のご計画と同じように素晴らしいものだったのです。しかし、サムソンは神様の御計画について無頓着でした。いつも適当で、真剣に考えることはありませんでした。その結果自分の人生を台無しにしてしまったのです。20年間に渡って士師を務めてもなお、ペリシテ人を迎えることができず、最終的には彼らに殺されるようになってしまったのです。

もう一つは、聖書を読む限り、人生の最後の場面を除いて、サムソンが真剣に祈った様子がなかったことが分かります。今日の16章の今日の本文の内容がサムソンの最後場面ですが、サムソンは、人生のすべてが崩壊(ほうかい)してしまうまで、神様のために生きることについて真剣に考えたことがありませんでした。16章のサムソンの最後の場面を読んで見ますと、ペリシテ人に捕らえられ奴隷となって、両目をえぐり取られ、家畜の代わりに大きな石臼(いしうす)を挽(ひ)くという仕事をさせられて死にそうになった時、初めて彼は真剣に神様のことを考えるようになったのです。すべてが崩壊した後、サムソンはついに祈りました(16章28節)。

愛するみなさん！もしサムソンが始めから祈ることを知っていたら、彼の人生はどう変わっていたでしょうか。すべてが崩壊するまで、神様に立ち返ることができなかつたのはなぜできなかつたのでしょうか。祈りのない生活を続けた結果、サムソンの人生の可能性が完全に閉ざされてしまったことを私たちはサムソンのあの人生の最後の姿を見ながらきびしく受け止める必要があるでしょう。

今日私たちも、何かに飛びついて問題を引き起こしてしまう前に、まず立ち止って神様の御心を求めることが必要です。そうすれば、余計な問題がおこるのを避けることができ、痛い思いをしなくて済むからです。サムソンは、窮地(きゆうち)に追い込まれるまで、真剣に神様にむけようとはしませんでした。今日、もし、私たちの信仰も「困ったときの神頼み」のようではありませんか。多くの人にとって今も神様は、「困ったときの便利屋(べんりや)」にしかすぎません。すべてがうまく行っているときは神様を無視してしまう時はなかつたのでしょうか。神様に対して真剣になるとは、神様の言われることに真剣に耳を傾け、毎日神様の導きと知恵を求めて生きることにはかならないことをともに心に受け止めていきましょう。

<4. しかし、神様は決して失敗したり、過ちを犯したあなたを見放されません！>

最後に、みなさん！もしこのサムソンの聖書の話がそこで終わってしまったら、希望のない悲劇の物語になってしまうでしょう。

しかし、神様はそうなさいませんでした。みなさん！ペリシテ人が切り落としたサムソンの髪の毛は、サムソンが神様と交(か)わした契約のしるしでした。サムソンの髪の毛は外面的な象徴(しょうちょう)で、本当の力の源は神様が下さったことをペリシテ人たちはしらなかつたのです。ペリシテ人は、サムソンの髪の毛を剃(そ)り落としたことでサムソンも、彼が信じていた神様も打ち破つたと思込んでいました。

しかし、神様は事態が変わるようにしました。どなたが士師記16章22節を読んでいただきますか。「しかし、サムソンの頭の毛は剃り落とされてから、また伸び始めた。！」。ハレルヤ！サムソン自分自身さえももうすべてが終わりだと落ち込んでいた時さえも神様はやり直しのプロセスを始めてくださっていました。そして、遅くなつたとしてもサムソンが悔い改め、祈り始めました。力を求めて神様に頼るようになった時、神様はサムソンの願いを聞き届けられました。神様は再びサムソンに力を注がれ、彼は生きている時の勝利より、最後の戦いに最も大きな勝利を与えました。サムソンは勇ましい英雄的な活躍を遂げて、人生の幕を閉じることが出来たのです。神様から第二のチャンスを与えられた時、サムソンは人生の最期の時に、最大な勝利を収めることができたのです。

この事実は今日私たちにとって大きな慰めとなっていないませんか。

もしかすると、我々の中にも、「自分は人生を台無しにしてしまった。もう自分など神様から愛されていない。二度と以前のように、神様に用いられることはない」と感じておられるかも知れません。しかし、サムソンのことを思い出してください。神様は、サムソンのことを決してあきらめてしまわれませんでした。そして、みなさんのことも決して見放されないのです。

新約聖書へブル人への手紙11章にはサムソンが神様の殿堂(でんどう)入りを果たし、偉大な信仰者たちのリストに名前を連(つら)ねていることは、非常に勇気つけられる事実です。それは、神様が人生の負け組と言われるような人々を用いて偉大なことを成し遂げられるお方だからです。もし神様が昔も今も完璧な人だけを用いられるとしたら、だれ一人として何も成し遂げることができなかつたはずですが。しかし、神様は不完全で、弱いごく普通の人々、場合によっては大きな失敗を犯した人々を用いられるのです。

メッセージを終わらせます。もし、みなさんがサムソンだったら、どうするでしょうか。彼が最期にしたように、私たちも自分の人生を神様にゆだねることが必要です。どんなに小さなことでも、それを神様に真剣にゆだねてください。私たちの最善と本当の人生の可能性をご存じなのは、神様だけです。それは自分の力では引き出すことができません。神様が、ご自身の力でしてくださることなのです。

さあ！クリスチャンプレイズチャーチのみなさん！始まったこの9月にサムソンのような同じ失敗を繰り返さず、神様にその大力を与えていただ前進し続けようではありませんか。真剣に神様の御言葉と祈りを持って信仰によって歩みますように祝福します。アーメン！